

貯業第一〇三五號

昭和六年三月十八日立案
同年三月三十日發送

局長

課長

業
經

法
業
販

(第一案)

通
牒

局
名

各
通
信
局

朝鮮總督府逋信局

台灣總督府交通局

關東廳逋信局

宛各通

貯
金
局

樺太廳內務部

南洋廳逋信課

貯金利子記入停止ニ関スル件

従来貯金年度決算期間中ハ貯金規則第二十五條第一項
但書ニ依リ利子記入ノ為ニスル通帳提出ヲ停止致居候
處来年度ニ於テハ預ケ人ノ便益ヲ考慮シ之ガ停止ヲ為
サザルコトト相成候條了知相成度

(第二案)

通
牒

業
務
課
長

貯金局第一貯金課長

同 第二貯金課長 宛各通
各貯金支局長

貯金利子記入停止ニ関スル件

貯業第七四一號(三月九日) 閣聯

本件ニ付テハ預ケ人、便益ヲ考慮シ既定方針通り通帳提出ヲ停止セサルコトニ決定セラレ候ニ付テハ相當負担過重ノ向ニ可有之ト思料セラレ候得共之カ為持ニ決算進行上支障ヲ生スルコトナキ様措置相成度

以下添書不要

年度概算期間中利子記入ノ為ニスル通帳提出ノ停止ハ大正九年事業ノ維局ヲ救済スル為メ実施セラレテ以

貯金局

例年之ヲ施行スルノ慣例トナリタル所元來新ル規定ハ豫期セラレサル事故ニ遭遇シタル場合ニ施行スヘキモノニシテ毎年定期ニ実施スルカ如キハ規定ノ本旨ニ非ス而シテ事業ノ現状ハ當時ト著レク趣ヲ異ニシ之カ停止ヲ為サレハ事業運行上著シキ支障ヲ生スルモトモ認メラレサルヲ以テ末年度ニ於テハ之カ停止ヲ為ササルコトニ致度

貯金規則第二十五條

月掛貯金以外ノ貯金預ケ人ハ毎年一回通帳ヲ郵便局所ニ差出し之ニ元加利子記入ノ請求ヲ為スコトヲ得但シ郵便官署ハ時期ニ依リ其ノ請求ニ應セサルコト

(以下省略)

共四紙 一五九編製

德貯第四七二號

回答

昭和六年三月十二日

德島貯金支局長

貯金局業務課長殿

利子記入停止ニ関スル件

對貯業策七四一號

三九

御来照ノ所本年ハ當局最初ノ年度決算ニシテ経験者乏
 シキ為ニ利子記入事務ヲ停止ノ上ニテモ其ノ他ノ通帳
 處理ニ際シ決算未了ノモノニ對シテ利子ヲ算出シ其ノ
 正否查確ヲ要スル等著シク能率ヲ減殺サレ、コト、ナ
 リ加フルニ四月分ヨリ受持全縣ニ對シ日締計算ヲ施行
 スルコト、ナリタル關係モ有之候ニ付テハ停止ヲ為サ
 サルコト、ナリテハ決算促進上相當重大ナル影響ヲ受
 クルコト、可相成候ニ付停止ノ事ニ御了承得度候
 追而停止期間ハ大体五月中旬迄ニ御取計相度候

貯金局

金貯第一二七號

回答

昭和六年三月十二日

金澤貯金支局長
貯金局業務課長殿

利子記入停止ニ関スル件

對貯業第七四一號

三月九日

上記御来照ノ件ニ對シテハ本日電報ヲ以テ御回答置候
慶利子記入ノ為ニスル通帳、昨年自四月至七月四ヶ月
間、受入數ハ下記ノ如クニ有之若シ本年度決算中之カ
提出停止ヲ為シ、ルニ於テハ日ヲ逐テ受入數増加ヲ未
シ勘ラトモ昨年自四月至七月四ヶ月間ニ於ケル受入總
數ノ一日平均數ヲ倍加スル通帳ヲ決算中毎日受入ヲ見
ルモノト想像セラルレ候果シテ如斯受入アリトモハ無余

貯金局

白再度通帳ニ從テ増加シ之カ決算進行上ニ及ホス影響
ハ宜ニ鮮クナラヌ即ケ未ク裁高算出ナキ原簿ニ對シテ
ハ先ツ之ヲ算出シ通算未済ノ原簿ニ對シテハ個別檢算
ニ依リ一々其ノ正否ヲ確ムルヲ要スルカ故ニ多大ノ勞
力ヲ空費スルコト、相成而シテ本年度決算ハ昨年ノ執
務方法ヲ以テ五月十五日前後ニ終了ノ予定、トコ口斯
クテハ五月底日ニ到ラサレハ完了ノ見込ナシ其間ニケ
月ニ亘リ從事負ラシテ早出居殘執務ヲ為サレムルハ其
ノ勞苦忍ヒサルモノアルノミナラズ尔後、事務進行上
ニモ虧カラス支障ヲ衛ラズモノト思料セラル、次第ニ
有之候

記

四月	二、九三四	五月	一四、一六五	六月	三四、六七一	七月	二二、六四〇	合計	七四、四一〇	一日平均	七四四
----	-------	----	--------	----	--------	----	--------	----	--------	------	-----

五月分、朱書、五月二十日ヨリ全三十一日迄、
受入数、複記

貯金局

共四部、一、九、九、四、四

阪貯第一五一二號

回答

昭和六年三月十日

大阪貯金支局長

貯金局業務課長殿

利子記入停止ニ関スル件

對貯業第七四一號 三九

右、来年度一ヶ年ニ限リ受入停止ヲ為シ、ルモ從來、
不提出慣習ニ依リ利子記入通帳ノ受入数ハ著レク増加
ヲ見サルヘキ見込ニシテ且目下、月次決算進行状況等ニ
鑑ミ不取敢来年度一ヶ年ニ就テハ差支ナキモノト認メ
別途電報ヲ以テ回報致置候得共将来ニ涉リテハ不停止
ノ慣習ヲ馴致スルニ於テハ更ニ逆勢ヲ呈レ或ハ之ニ耐
ヘナルニ至レヘキヲ以テ右告示ヲ休止スル場合ニ於テ

貯金局

モ部内各局ニ對シテハ「停止期間ヲ廢止シタルニ非サ
ルヲ以テ不得已モノノヲ受理スルニ止ムヘキ」旨ヲ
通牒セラレ度右通牒ヲ廢セシムルニ拘ラヌ尚若レ中途ニ於
テ予想外ニ劇増シ年度決算事務ノ進行ヲ著レク阻害ス
ルカ如キ虞下ル場合ニ至リテハ不得已適宜調節ノ上處
理スルノ外ナキ見込ニ有之候奈了知置相成度候

長貯第六一二號

回答

昭和六年三月十一日

貯金局業務課長殿

長野貯金支局長

利子記入停止ニ関スル件

對貯業第七四一號 三九

上記未照ニ依リ電報ヲ以テ回報置ノ處未意、如ク通帳提出ノ停止ヲ為サ、ハトキハ年度初頭ニ於テ通帳ノ受入相當多數ニ上ルヘク隨テ日々之カ處理ニ忙殺ナル、而已ナラス通帳處理ニ當リテハ特ニ裁高ヲ算出シ箇別檢算ヲ為サ、ルヘカラサルヲ以テ甚ク手教ヲ要シ為ニ年度決算運行上著シキ支障ヲ生スルヤニ認メラルニ付四月中停止ノコトニ取計相成度

貯金局

追而今年度ハ利子更正及移替事務等、為例年ノ如ク年度決算準備ノ進行ヲ見ス殊ノ外支障了レ義ニ有之
 順

貯二庶第一二三號

昭和六年三月十二日

第二貯金課長

業務課長殿

利子記入停止ニ関スル件

對貯業第七四一號

三月九日

右ハ年度決算期ニ於ケル事務運行上ニハ相當困難ナル
モノアリト思料セラル、モ夏期ニ於ケル繁忙ノ緩和ナ
ルル利点等ヲ考慮スルトキハ利子記入ヲ停止セザルニ
著シキ支障ハ無キモノト被存候

貯金局

貯一庶第一四〇番

回答

昭和六年三月十日

業務課長殿

第一貯金課長

利子記入停止ニ関スル件

對貯業第七四一號 三月九日

右ハ御方針通りニテ著シキ支障無之モノト思料セラレ候ニ付及回答候

貯金局

貯業第七四一號

昭和六年三月七日立案
同 年同月九日發送
業

課長

一貯
二貯

照會

年月日

業務課長

各支局長宛

貯金局

利子記入停止ニ関スル件
年度決算促進上従来年度^{決算}期間中貯金規則第二十五條中

但書ニ依リ利子記入ノ為ニスル通帳提出ヲ停止致居候
處来年度ニ於テハ右停止ヲ為シ、ル方針ナレモ一應著
レキ支障有無電報ヲ以テ回報相成度

昭和六年三月七日